

ふれあい通信

2023
5月号



Index

P2

特集

高齢者の生活を守るリハビリのススメ

P6

ケアマネ相談室

File 9

たまふれあいグループ連携施設のご紹介 その10

P8

スタッフ紹介

たまレポ!

リハビリテーション科

理学療法士

篠原 あさみさん

高齢者の生活を守る

リハビリのススメ



リハビリテーション科
管理者
しんば ひろし
榛葉 寛

高齢者の場合、入院の影響で筋力低下となり、リハビリテーションが求められる場面は多くあります。しかし、退院後に介護保険を利用する場合は単位数の限りから、どこまでケアプランに盛り込めばいいか判断が難しいという声を耳にします。

そこで今回の特集では、たまふれあいクリニック・リハビリテーション科の管理者・榛葉寛から、リハビリの介入ポイントについてご紹介します。

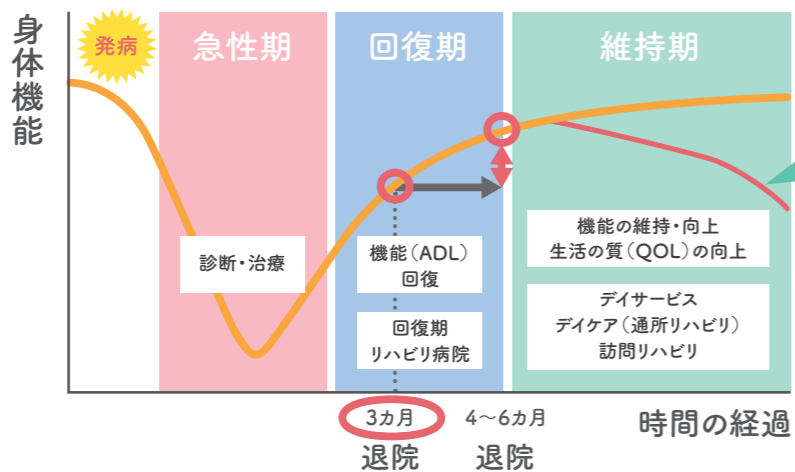
退院後もリハビリを 続けてほしい3つの理由

脳血管疾患などで入院し、手術など急性期の治療を終えると、身体機能を回復させるために回復期病院などで集中的なリハビリテーションを受けていただくのが一般的です。回復期のリハビリは、対象となる疾患により60〜180日と入院期間が定められています。この期間は毎日集中的にリハビリを受けて少しずつ身体機能が良くなっていくため、定められた期間内に退院して、その後はご自宅での生活に戻ることになります。

要介護認定を受けている場合、退院後のケアプランを策定するにあたり、「病院でリハビリテーションをがんばったからもう大丈夫」と判断して、リハビリのプランを抜いてしまうケースが見受けられます。これはぜひ避けてほしいと、私たちは考えています。理由は大きく3つあります。



図1 機能回復曲線



リハビリを止めると回復した機能が低下することもあります。

第一に、身体機能の回復には個人差があるため、退院の時点がゴールではなく、さらに改善する可能性があるからです(図1)。第二に、病院の中ではスムーズに活

動できなくても、ご自宅で実際に生活を再開すると体の変化に環境が伴わず、日常生活でお困りになるケースがあるためです。

病院にいれば、毎日、適切に体を動かす続けられますが、ご自宅で自発的に訓練のメニューをこなすのは容易ではありません。高齢者は特に、自宅にこもりがちになるため、毎日続けていた運動量が急に減少すること、せっかく引き上げた機能を低下させてしまうケースはよくあります。これが第三の理由です。

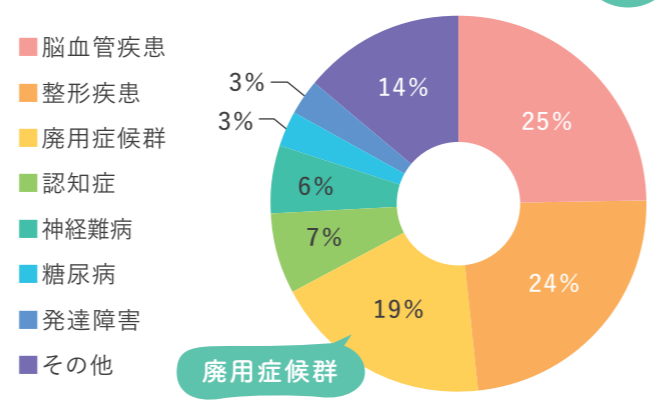
退院後はリハビリをゼロにはせず、「本当に大丈夫」となるまで週1回はプランに入れていただき、経過を見守るのが理想です。

リハビリの理由で 3番目に多い廃用症候群

第三の理由についてたまふれあいグループを例に説明します。図2は、私たちにリハビリをご依頼いただいているご利用者の主疾患です。脳血管疾患、整形疾患のような疾患理由と並んで多いのが、廃用症候群です。

食事やトイレ以外は横になり、家で一日過ごしているという高齢者は一定数います。横になったままでは筋力はもちろん、内臓機能の低下も起きてしまうことから、寝付くようになれば早期のリハビリ介入が必要なのケースだと私たちは判断しています。

図2 リハビリテーションご利用者の主疾患 割合



訪問診療を受けている 場面に利用できる 集中的リハビリ

在宅で療養を行っている患者さんで通院が困難な場合、退院・退所後3か月間は集中的な訪問リハビリ提供が可能です。令和3年度の介護保険法改正では、医療保険による退院後の集中的リハビリ提供の要件に合わせ、週最大6回から12回(1回20分)へと回数が増え、引き上げられました。



たまふれあいクリニック リハビリテーション科 をご紹介します！

たまふれあいクリニックのリハビリテーション科には計10人(内1人は育児休暇中)のセラピストが在籍しています。当クリニックの医師の指示で行う訪問リハビリのほか、グループ内の看護小規模多機能型居宅介護、グループホーム、デイサービスや障がい者就労支援事業所などにも介入し、必要なリハビリの提供をはじめ、アドバイザーとしての役割を果たしています。

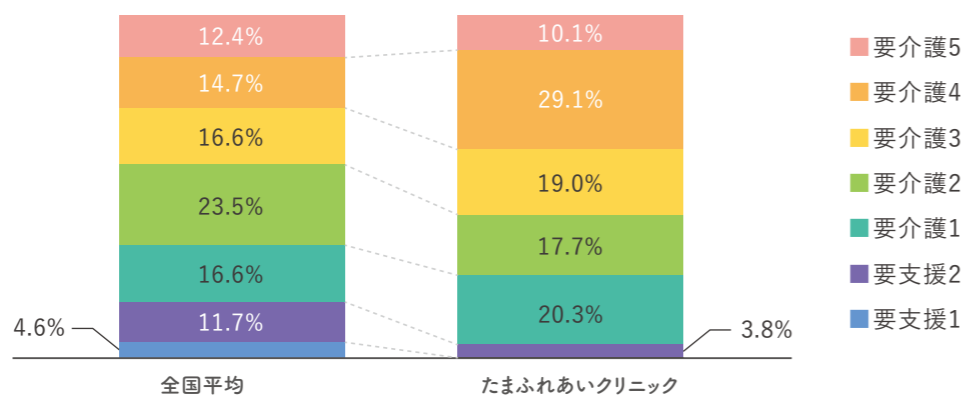
ポイント① スタッフが多い！

訪問リハビリテーション事業所の特性

保有資格	職員の常勤換算数(平均値)	たまふれあいクリニック・リハビリ科
理学療法士	2.91人	5人(1人育児中)
作業療法士	1.18人	3人
言語聴覚士	0.37人	2人

ポイント② ご利用者は軽度が少なく中重度が多い！

訪問リハビリテーション利用者要介護度



※全国平均は、第182回社会保障審議会介護給付費分科会(令和2年8月19日開催)資料を基に作成

発症から180日以内の脳血管疾患や、受傷後150日以内の整形疾患はリハビリの効果が高いといわれています。回復期で入院可能な期限を待たずに退院されるケースもあるため、退院後の集中的なリハビリはとても大切です。要介護・要支援認定を受けている場合は原則、介護保険の訪問リハビリしか適用されませんが、ぜひ介護保険を活用して継続したリハビリを続けてほしいと思います。

高齢者の場合、この期間を過ぎて在宅での生活が落ちた後から、急性増悪などにより身体機能が低下するケースもあります。この場合、一時的に老人保健施設への入所を検討されることもあります。ご利用者がご自宅にいることを望まれていて、悩ましいという声もあります。

訪問診療を受けている患者さんの場合、急性増悪などにより一時的に集中的なリハビリを行う必要があると医師が認めた場合、6カ月に1回を限り、14日を限度に集中的なリハビリを医療保険で受けることができます(※)。介護保険を利用して在宅で生活している場合でも、医療保険による集中的な訪問リハビリを行うことができますので、ぜひ検討してください。

※在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料:(10)保険医療機関が診療に基づき、1月にパーセル指数またはFIMが5点以上悪化し、一時的に頻回の訪問リハビリテーションが必要であると認められた患者については、6月に1回を限り、当該診療を行った日から14日以内の期間において、14日を限度として1日に4単位まで算定できる。当該患者が介護保険法第62条に規定する要介護被保険者等である場合には、診療録に頻回の訪問リハビリテーションが必要であると認められた理由および頻回の訪問リハビリテーションが必要な期間(ただし14日間以内に限る)を記載する。

厚生労働省 令和4年3月4日 保医発0304第1号「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について(通知)」

☑チェックリストを活用して リハビリが必要な人を見落とさない

たまふれあいグループでも、リハビリの介入ポイントに関係職種間で把握できておらず、必要なリハビリ介入ができていない可能性が散見されました。そこで、リハビリ科として「訪問リハビリの適応チェックリスト(図3)」

を作成して、グループ内でチェックする体制を進めました。その結果、グループ内からの訪問リハビリ依頼比率が上がり、必要なリハビリがより積極的に提供されるようになったと実感しています。

図3 たまふれあいグループ 訪問リハビリの適応チェックリスト

リハビリ科がグループ内で共有しているチェックリストをご紹介します！

1つでも☑該当する方は訪問リハビリ導入の検討が必要と思われます。お気軽にご相談ください。

● PT・OT (ST)

- 回復期病院、地域包括ケア病棟、老人保健施設、退院および退所直後(リハビリが急になくなり、回復した機能が低下する恐れがある)
- 発症180日以内の脳血管疾患(より回復の可能性が高いため)
- 受傷後150日以内の整形疾患(より回復の可能性が高いため)
- 受傷後リハビリを行っていない整形疾患(上肢の骨折や圧迫骨折など)
- 神経難病(パーキンソン病、ALSなど。進行が早いので早めの導入が望ましい)
- 呼吸器疾患(慢性呼吸器疾患:肺気腫、慢性気管支炎、気管支喘息、気管支拡張症などの肺疾患で生活に支障がある方)
- 住環境や福祉用具に困っている方
- 廃用症候群

● ST

- 失語症(言語の障害)、高次脳機能障害(記憶障害・注意障害など)
- 嚥下障害(食べ物をうまく食べられない、食事中むせるなど)

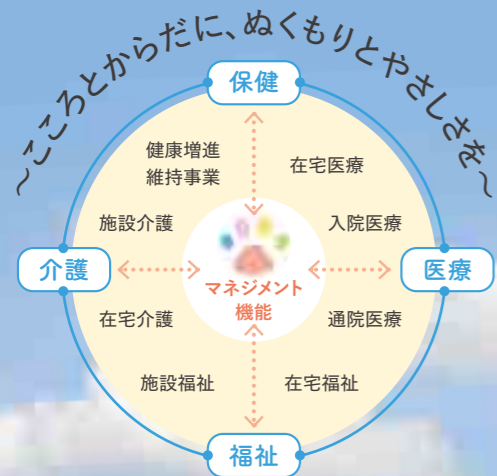
地域で暮らし、 地域で生きる ということ。

人々は地域で暮らし、地域の中で生きています。

世の中がどれほど発達したとしても、
人々の暮らしは地域の中にあります。

そして、たとえどんなに科学技術が進んだとしても、
人が人へ伝えるぬくもりや、やさしさを
超えることはできないと考えています。

だからこそ、私たちは地域に徹底した
こだわりを持ち続けます。



地域の人々の、
よりよい生活と人生のために



たまふれあいグループは、医療・介護・福祉・保健事業を
統合的に展開する医療法人グループです。

- たまふれあいクリニック
訪問診療／専門外来／訪問リハビリテーション
- たまふれあい訪問看護ステーション
- たまふれあい居宅介護支援事業所
- たまふれあいの森
健康相談／セミナー／健康チェック
川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘2F
- たまふれあいグループホーム 枳形（医療・看取り対応型）
- ナース&ケアハウス ふれあい（看護小規模多機能型居宅介護）
川崎市多摩区枳形6-19-8
- たまふれあいグループホーム 登戸新町（医療・看取り対応型）
川崎市多摩区登戸新町186
- デイサービスふれあい
川崎市多摩区生田3-18-2 アボードベア1F
- たまフレ！（障がい者就労支援事業所）
川崎市多摩区登戸2519-1 ヨシザワ10ビル4F

ケアマネジャーの質問に多職種スタッフが答えます！

ケアマネの気づき

グリーンケアは本人が生
きているうちから始まってい
ること、残された家族の今
後の人生にもつながると気
づかされました。このケース
では、Aさんの病状が悪化
して看護小規模多機能型

居宅介護（看多機）の緊
急ショート利用となりま
したが、奥さんはその後、
看多機へ足しげく通うこ
とでAさんと一緒に時間
を過ごされて、満足だった
と話されていました。

ケアマネ
奥さんと二人暮らしをさ
れているAさん。現在は訪問看護
を利用されていますが、身体状況
の悪化が進んでいます。お子さんた
ちは近所に住んでいます。仕事
があり、日中の支援は困難な状況
です。奥さんは、本人の健康管理や
食事、身の周りの事まですべて自分
でやってあげたいというお気持ち
が強く、訪問介護や入所のサービ
スを受け入れをためらわれている状況
です。Aさんのお看取りについても
検討が必要な時期にきているため、
対応に悩んでいます。

ケアマネ
グリーンケアは亡くなっ
た後のケアというイメージをもつて
いました。できるかできないかを技
術的に判断して、ケアマネジャーの
立場から奥さんだけでは難しいと
いう答えしかありませんでした。奥
さんにとっても納得できるお看取
りになるようプランを考えます。

佐藤さん
奥さんができるかできな
いかだけではなく、介護したい気持
ちを大切にあげてほしいと思

佐藤さん
奥さんが「してあげた」と
いう満足感を得られることで、ご主
人が亡くなった後の生きていく糧に
なると思います。



ケアマネ 相談室 File9

テーマ

グリーンケア

考えた!



看護師

さとう なおこ
佐藤 奈緒子さん

いつもありがとうございます！！

その10

たまふれあいグループ連携施設のご紹介

リアンレーヴ新百合ヶ丘

☎044-819-6603

有料老人ホーム
（特定施設入居者生活介護）



神奈川県川崎市麻生区五力田1-9-1
2007年8月開設
事業主体：株式会社木下の介護

第一印象で温かみを感じる思いやりを大切に

たまふれあい
クリニック
鈴木 忠院長より
おすすめ
ポイント

アットホームな雰囲気
とフロアで認知症の
ある方でも安心でき
る家庭的環境です。
常勤看護師さんもベ
テランの方で私たち
も信頼しています。

当施設は駅から近く便利
性がありながら、一軒家が
立ち並ぶ閑静な住宅街にあ
るため落ち着いた環境でお
過ごしいただけます。道を
挟んだ向かい側には児童公
園、少し歩くととっと広い公
園があるので、外気浴や機
能訓練の一環として散歩に
出掛けて、四季折々の花や
景観を楽しんでいただいで
います。また、定員46名と小
規模ならではの良さを活か
して、アットホームなサービ
スを心掛けています。「リ
アンレーヴ」は、木下の介護
グループでは3対1の職員
配置となり、リーズナブルに
ご利用いただけるライン
ナップでもあります。
当社は「ご入居者・ご家族・

地域の方々・職員」の幸せのた
めにどうすれば良いのかを考
え行動することを企業理念
に掲げています。この仕事を
選ぶ人々は、人の役に立ちた
い思いがあり、職員も「ご入居
者・ご家族・地域の方々」の幸
せを考えて頑張っています。
だからこそ、施設長としては
「職員」の幸せにより注力し
ていて、入社したときの思い
をもち続けられるような施
設づくりを目指しています。
職員が思いやりのある接
遇を心掛けていたため、施
設見学に来ていただいた方
は第一印象で温かみを感じ
てくださるようです。それが
ご入居の決め手となってお
り、当施設の強みとも言え
るでしょう。

介護は社会的にもっと
評価されていい仕事。自
分や家族が入所したい
と思える施設かを自問し
ながら取り組んでいます。



施設長（介護福祉士）
すみや ゆうすけ
角谷 優介さん



医療法人メディカルクラスタ TEL:044-931-3380

〒214-0014 川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘2F 【看護師・介護職募集中!】



リハビリテーション科
理学療法士 (PT)
しのはら
篠原 あさみさん



ご利用者のよりよい生活を目指して
寄り添っていただけるPTを目指します。

たまレポ!

今月のインタビュー

地域相談室 相談員

しんどう ゆり
進藤 優里



こんにちは! たまふれあい地域相談室です。

今回は、今年1月に入職したPTの篠原を紹介し
ます。篠原は専門学校卒業後、病院の回復期リハビ
リテーション病棟に勤めていました。当時は毎日リ
ハビリを行うので、日に日に良くなっていく患者
さんを見るのがやりがいがかったそうです。退院され
る患者さんから「あなたが担当で良かった」と言わ
れて、うれしい経験もされました。

しかし、リハビリを行って退院された患者さんが、
また再入院になることもあり、ご自宅へ帰られてか
らが「患者さんにとっての本番」と思うようになった
そうです。PTとして、退院される患者さんのご自宅
を訪問して環境調整もしていましたが、退院後に生
活を始めると自宅の環境は変化するため、その後
を看たいという気持ちが強くなったと話します。

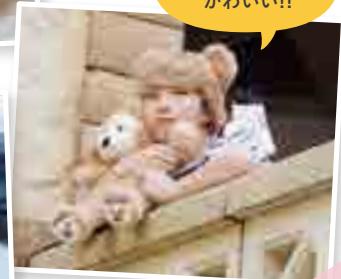
この仕事を目指した当初からご利用者に寄り添
うPTになりたいとイメージしていて、たまふれあい
グループの「地域の人々の、よりよい生活と人生の
ために」という企業理念に惹かれて、求人に応募し
たそうです。実際に入職してみて、リハビリテー
ション科のメンバーや看護師なども、ご利用者のこ
とを一生懸命に考えていると感じたそうです。職場

も堅苦しさはなく、話しかけやすい雰囲気であれし
く思っているそうです。

今はまだ知識も経験も足りないため「外部の勉
強会にも参加して、知識に基づいてご利用者に寄
り添えるPTを目指したい」と話す篠原が、皆さんか
らの相談をお待ちしています。



「自分史上最高傑作」
というケーキ!
すごくおいしそう♡



仮装して友達と
ディズニーランドへ。
かわいい!!



スポーツ大好きで
トレイルランニングにも出場。
冬はスノーボード♪

地域相談室

イケダのっぶやき



今回はたまふれあいクリニックのリハビリテ
ーション科について特集させていただきました!
いかにリハビリが大切がよく分かる内容になっ
ていますので、ぜひ読んでみてください(^ ^)♪
5ページの写真を見てのとおり、リハビリテ



ーション科は元気いっぱい個性豊かなメン
バーです★
ぜひともご相談お待ちしております!!

(地域相談室 相談員 いけだ 池田あゆ)



044-931-0220

〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1763
ライフガーデン向ヶ丘2F